北海道の四季

帯広市医師会
さかい総合内科クリニック　酒井（さかい）　俊（たかし）

昨今、地球温暖化による気候変動のニュースがテレビから流れない日はない。アルプスの氷河が小さくなっただとか、ツバル（南の島国）が水没しそうだとか。そこまで遠い国の話でなくてもこの帯広でも実感できる。６月上旬に気温32度はどう考えても暑すぎである。ただ暑いだけでなく暑い日と寒い日、朝と夜の気温差がすごい。よくイギリスには１日のうちに四季があるといわれる。朝晩はコートが必要でも昼は半袖で十分。帯広もついにイギリスに近づいたのか～と変に誇らしかったりする。これだけ気温差があると若い人はともかく、クリニックに通ってこられる高齢者の方は大変そうである。体がついていかないと皆さんおっしゃる。

高校の地理の時間にケッペンの気候区分というものを教わった。地球の気候を緯度や気温、降水量で分類して図式化したものである。確か北海道はDf（冷帯）といって冷帯気候に属していたと記憶している。冷帯とは短い夏と長い冬が特徴の地域である。奈良育ちの私も北海道とはそういうところなんだなとなんとなく思っていた。帯広にやってきてもう25年になるが、その考えは徐々に変わってきている。とにかく夏が長くなった。以前なら本当に暑いのは８月に入ってからで、お盆も過ぎれば秋風が吹いていたものである。盆踊りの夜なぞはチョット一枚羽織らないとひんやりとした。ところが最近では５月末から９月半ばぐらいまで「暑いな…」と感じる日がある。これはもう本州の感覚である。確かに冬はマイナス15度まで気温が下がるが、マイナス20度になることは少なくなった。

うちの家にも猫の額ほどの畑があり、毎年作物を植えている。作るのはたいていすぐに食べられる野菜類である。自家製の枝豆を食べるとビールが進む！　枝豆を植えるのは５月半ばで収穫は８月下旬頃である。だから、以前ならやや涼しくなり始めており、枝豆は秋口に食べる感覚だった。でも最近は植え付けもゴールデンウィークにはでき、収穫も早い。盛夏に美味しい枝豆が食べられるようになった。

本日患者さんのお宅に数軒訪問診療を行った。外気温は32度で車のエアコンをかけても車内は蒸し風呂状態である。そろそろタオルを首に巻かないと汗だくになりそうな感じである。数年前なら自宅にエアコンを備えていないお宅が大半であった。訪問して感じたことは、「この中で１日中過ごすのは辛そうだな」ということである。室温も30度ほどある中で高齢で寝たきりの患者さんが横たわっている。暑さのピークの時には脱水症に陥り、しばしば連携する病院に入院でお世話になったものである。ところがここ数年で患者さん宅のエアコン設置率は大幅に上昇したと思う。統計を取っておけばよかったな。さすがの北海道でも夏のエアコンなしではいられなくなっている。

今日のニュースでは函館のイカ漁が深刻な不漁という。気候帯がだんだん南から北へとスライドしてきているような気がする。北海道はそのうちDf（冷帯）ではなくCf（温帯）になるのではないだろうか。そしたら本州はどうなるの？　亜熱帯になってしまうのか。あのケッペンの気候区分もだんだん南から北に帯がずれていくのかもしれない。あまりにも変動が大きいと、大学入学共通テストの地理の問題を作るのは大変だろうな。北海道は温帯になっているんじゃないですかなどと意見を述べる受験生も出てくるかもしれないし。

私たちは日々の暮らしの中に知らず知らず法則性を感じ取っているものである。雪はいつごろ降るとか、枝豆は夏の終わりに採れるとか、ボーナスは夏と冬に出るとか（今後出ないかもしれないが…）ところが最近の気候変動はこれを大きく上回るスピードで変化しているのである。常識だと思っていたものがあっという間に変わってしまう。人の考えること、思うことは変わりやすいものである。政治家の公約などその代表かな。でもこの地球のことは安定しているものだとみんな長く信じていた。それもついに揺らいできたのかな。多少のことには驚かない強い精神力とどんな温度変化にも耐えられるニュータイプのような肉体がこの先を生きる人類には求められるのであろうか？　と旧人類のおじさんは思うのである。